



いかならむことにあひてもたゆまぬは
わが敷島の大和魂



通宮で結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

産土



彦島八幡宮社報
第 41 号



責任役員総代長就任のご挨拶

河野 勝美

去る三月十一日に発生致しました東日本大震災は全世界に衝撃を與えその凄さに驚いた所です。被災された多くの関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に犠牲になられた方々に心より哀悼の意を表します。私たちが今何が出来るかを考え被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

二年前、創祀八百五拾年式年大祭には多くの皆様方よりの多額な浄財により工事も全て完了し万事が整った格式ある八幡宮に生れ変わり参拝者の方々から称讃をいただいて居ります。有難い事でございます。

去る四月末開催されました神社役員会におきまして前川崎総代長が御勇退される事になり後任として不肖河野勝美が就任する事になりました。浅学非才の身ではありますが皆様方の温かい御支援御協力をいただき鋭意努力を惜しまぬ所存であります。

長い歴史を持つこの彦島八幡宮も時代毎にそのしきたりにも色々あった事と思いますが、彦島開祖十二苗祖の子孫がその先祖の意思に従い語り伝えられ現在に到ったのではないかと思われ、その当時より彦島八幡宮は心の安らぎの場所でもあり、地域共同体のシンボルではなかったのではないのでしょうか。

年中行事として斎行される秋の例大祭を始め春の節分祭、夏の夏越祭には奉賛会を始めとする各部門の協力をいただき盛大に開催され、年々参詣者も増加してきている様で誠に喜ばしい事です。

今後私達は身近にある彦島八幡宮を再認識し心の安らぎを求め各種行事の参加を求めて、憩いの場所としての境内の若葉青葉の散策は楽しく、又新しい発見もあり神の恵みにも叶う事になるでしょう。

更なる彦島八幡宮隆昌を目指し努力を続けて参りますが、その為には町民の皆様が八幡宮の御神徳を信じ敬神の念を忘れず明るく楽しく暮らす事が望まれます。

最後になりましたが八幡宮の護持運営につきまして奉賛会、維蘇志会、敬神婦人会の皆様方の御協力を心よりお願い申し上げます。



宮司プレス総集編

※平成23年上半期(2月~5月)発行分を総集編としてお届けします。掲載紙面の都合上、中略しています。全文ご覧になりたい方は八幡宮ホームページへアクセスください。

第五十七号(平成二十三年二月一日)

◇二月は、別名如月(きさらぎ)といいますが、私のように寒いから厚着をする、衣を重ねるからではありません。「キヌサラギ」「キクサハリツキ」、春となり、禽獣(きんじゅう)と読み、動物の事です。や植物の命が新たに芽生える意味です。大変厳しい時代ではありますが、誰にでも分け隔てなく朝は必ず訪れ、朝日が差し込み、春がやってきました。きつと成功する、成就する事をイメージし、その夢が叶うよう、澄み切った心で感謝を捧げ、御加護を仰ぎながら、朗報を待つ、そのような敬神生活を心がけたいものです。

◇吉田兼好の書いた「徒然草」の第百五十段に、「季節は定まれる序(ついで)あり死期(しご)は序(ついで)を待たず」とあり、第百三十七段には、「若きにもよらず強きにもよらず思い懸(か)けぬは死期(しご)なり」とあります。季節は、正確で確実な順序で移ります。春が来て桜の花が咲いて、その花びらを散らし、やがて新緑となり、そして色づき、さらには、その色づいた葉も落とすのです。

しかし、春が訪れば、また、花を咲かせる事ができるのですが、人の命は、一世限りでしかも、正確な順序に従っているわけではありませんね。老いたる人、若い人にかかわらず訪れるのが、まさに、「思い懸けぬ、思いもよらぬ」一世であります。今、日本は、「多死社会(たししゃかい)」に突入しました。昨年も、百万人以上の方が、尊い命を失われました。一日に、三千人から四千人の命が失われていると考えられています。少子化高齢化が、世界最速で進んでいる我が国は、今から二十九年先まで高齢者が増え続けるそうでありま。

◇先月は、美祿市の社会復帰促進センターの教誨(きょうかい)活動が、三回にも及びました。美祿市は、御承知のとおり、積雪のあるところです。思い切つて、「スタッドレスタイヤ」に交換しました。出費がかさみますが、やはり、「思い懸けぬ」という事にならないように心掛けたいです。

◇徒然草の第九十三段には、「されば人 死を憎まば 生を愛すべし 存命の喜び 日々に樂しまざらんや」とあります。人にとつての最高の宝は、財産でも名声でも地位でもなく、死というものが、免れることの出来ないものである事を日々自覚して、生きて今ある事を樂しむ事だけだと、生きて行く事を前向きに励ましています。「メント モリ」、ラテン語で「死を忘れるな」という意味ですが、死を忘れずに生活をする、これが、存命の喜びで、生きて今ある事を樂しむという事なのですね。数え年の五十歳となった私は、平均寿命からしたら、私の余命(よめい)は、これまで生きてきた時間より、確実に短くなります。この余命という言葉は、一生の終りに近づいている命の事ですよ。何か寂しさや陰気な感じがします。宮司プレス五十号にも詳しく書きましたが、作家の藤本義一さんのエッセイに、「余命」ではなく、与えられた命の『与命(よめい)』にしたらどうか」と書かれていて、目から鱗(うろこ)です。人は、誰しも命を与えられているのです。ですから、その与えられている限られた命の中で、生かされて活き活きと生きる、だから、「生活」なのでしょう。死を忘れずに、生きて今ある事を樂しむ事が、存命の喜びで、まさしく、「与生」なのではないでしょうか。春という象形文字は、桑の芽が伸びきった形をしています。二月四日は、「一陽来復(いちようらいふく)」で、立春です。春という象形文字にあやかり、「命 いっぱい」伸び切った、存命の喜びを分かち合いたいものです。

第五十八号(平成二十三年三月一日)

◇三月は、「弥生(やよい)」です。

古来から「木草弥生(きくさいやよい)」「茂る月、つまり草木のいよいよ生い茂る月の意味で、つまり「やよい」となったという説が有力です。またこの月は、「桃の節句(せつこ)」ひな人形を飾つて女の子の成長と幸せを願う行事、「ひな祭り」が行われます。実はひな祭りは、身の穢れを祓う行事でした。三月に入って初めての巳(み)の日に川や海で禊(みそぎ)を行い、酒を酌交わして災厄(さいやく)を祓うという、古来中国で行われていた上巳(じょうし)の祓いが奈良時代に日本に伝わったものであります。宮中では三月の巳の日に、天皇陛下の大御体(おおみま)をお体(みま)を人形で撫でて厄を移し、お祓いをする行事となり、平安時代には貴族の間にも広まりました。この祓(はら)いに使われた素朴な人形が、雛(ひな)人形の原形(げんけい)なのです。

◇外清浄(げしじょうじょう)と内清浄(ないしじょうじょう)、「一体なんのことでしょう。神社神道は、現在の生き方、自分の生き様というものを重視します。したがって、先月号にも記載しましたが、「死」という逃(のが)れる事の出来ない恐怖を意識し、世代交代、生命の連続を前提とした生き方を大切にしてきました。しかし、情報が氾濫(はんらん)し、人の価値感が多様化すると、規範意識(きはんいしき)が低下してしまいます。

大自然の営みに感謝する素朴な気持ちや全ての事象や物事にも神の恵みがあるのだという、神性を認めるという崇高(すうこう)なる精神、さらには、他者を尊敬する謙虚な姿勢が失われてしまふのです。まさしく、「心の浄化装置(じじょうかそうち)」が正しく作動しなくなり、現在の生き方や生き様を省(かえり)みて、前向きな姿勢を忘れてしまふのです。鳥居(とりい)をくぐり、手水(てみず)で身をそそぎ、身体を清めて、神前に額(ぬか)づく、これが、「外清浄(げしじょうじょう)」であります。神前(しんぜん)に向かい、自分自身の生き方を見極め直し、心をまっさら(まっさら)に清める、これが「内清浄(ないしじょうじょう)」です。実は、「身(しん)」は、現在を意味し、「身(み)」を清める、これが「外清浄」です。そして、心の浄化装置が正しく作動されるよう、自分の心を見つめ直し、未来を意味する「新(しん)」、新しい自分を誓う事が、「内清浄」なのです。まさしく、神棚を拝し、御先祖様に額づくという、敬神崇祖(けいしんすうそ)の生活こそが、「外清浄、内清浄」であり、「心身(しんしん)」ともに清められ、新しい明日を切り開いていく力となるのではないのでしょうか。

◇明日が、ひな祭りですね。私事で大変恐縮ですが、柴田家に婿入りという事で結婚式を挙げたのが、平成元年三月三日の事でした。今年で結婚二十二年目になります。しかも、私は、神職の正装である正服(せいぷく)を着て、妻は十二単衣(じゅうたん)であり、まさに「ひな祭り」そのものであります。

私にとつての彦島八幡宮の出発点が、「桃の節句」で、しかも、明日は、「巳の日」で、「上巳の祓い」を行う日とも重なるのです。

室町時代の能業者(のうがくしや)の世阿弥(ぜあみ)は、「花鏡(はなかがみ)」で、「初心(しんしん) 忘るべからず」という言葉を残し、能を学ぶ弟子への教えとしました。「是非(ぜひ) 初心忘るべからず」「時々(ときどき) 初心忘るべからず」「老後(らうご) 初心忘るべからず」と三条が掲(かか)げられています。「是非」とは、若年(じやくねん)の頃、「時々」とは、修行の段階に応じたそれぞれの時期で、「老後」とは、老境(らうきょう)に入った時の事です。それぞれの段階において、初心を忘れなければ、生涯(しょうがい)、芸の水準(すいじゆん)が下がる事はないという教えです。心の浄化装置が正しく作動すると、「初心忘るべからず」という謙虚な姿勢を取り戻すことが出来るのではないのでしょうか。

二十二年前の頃の未熟さと、それゆえのひたむきさ、謙虚さである「初心」を忘れずに、常に、「外清浄、内清浄」を怠らず、健全なる神社運営に努力申し上げます。今後とも何卒、よろしくお導きください。

第五十九号 (平成二十三年四月十二日)

◇「去年 (こそ) 盛 (も) りあれば今年花なかるべき事を知るべし」

これは、先月号にも記述しましたが、「能楽 (のうがく) の基礎を確立した世阿弥 (ぜあみ) が、父である観阿弥 (かんあみ) の遺訓 (いくん) をもとに記した、日本最古の能楽理論書ともいえるべき風姿花伝 (ふうしかでん)」、その「第七 別紙口伝 (べっしぐでん)」に書かれています。

時 (とき) の運 (うん) とは恐るべきもので、昨年花が盛りと咲けば、今年も昨年と同じように花が咲かない事を悟るべきだと説いているのです。もともと花見は、秋の収穫を占うものでした。

「桜 (さくら) の」の「さ」は、稲の霊 (みたま) の事で、「くら」は神の座 (ざ) を意味していたそうです。したがって、「さくら」は、五穀 (ごこく) の神様が宿る木、神様の住まれる木と考えられました。

桜の花の咲き具合で、その年の稲の豊凶 (ほうきょう) を占ったのが、花見の始まりだという説もあります。古代の人々は、桜の花を見て、その年の豊作を祈ったわけですが、大自然の恵みに感謝を捧げ、共存してきた古代の人々の知恵なので、

そして、台風や旱 (ひでり) の災害がない事を祈りながら、つらく長い農作業が始まる前の、ひとときの「やすらぎ」「楽しみ」も「花見」であつたはずですよ。

記録的な豪雪をもたらしたこの冬の寒さのせい、あの未曾有 (みぞう) の東日本大震災より早くも一月が経ちましたが、その大震災に気兼ねをしたかのような遅い開花となりました。

◇東日本大震災は、「神も仏もない」、「戦禍 (せんか) にも劣らない天災」、「一瞬にして歴史を作り、一瞬にして歴史を消した災害」筆舌 (ひつせつ) に尽しがたい大災害であります。しかも、「大震災」と「大津波」として、「原発事故」と三つがING (アイ・エヌ・ジー)、同時進行である事が、災害の深刻さを浮 (う) き彫 (ぼ) りにしています。

◇しきしまの 大和心の ををしきは、ことあるときにぞ、あらはれにける
日露戦争を前に、明治天皇様がお詠 (よ) みなられた御製 (ぎよせい) と読み、天皇陛下のお詠みになられた和歌、ちなみに皇后陛下のお詠みになられた和歌は御歌 (みうた) といひます。

◇いかならむ ことにあひても たゆまぬは わがしきしまの 大和魂
ともお詠みになつていらつしやいます。

敷島 (しきしま) と読み日本の国ことです。日本人の麗しい心である大和心、大いなる和 (やわ) らぎや相互扶助という「助け合い、思いやり」の心の結集された大きな力は、困難に立たされた時に発揮され、どのような試練に遭 (あ) っても屈しないのが、その麗しい心、大和魂であると詠まれました。

日本国民であるならば、日本人の心や誇りをもって奮闘努力するに違いない、そうすべきであるとお示しになつていらつしやいます。三月十六日の天皇陛下のビデオメッセージの励ましのお言葉にもつながっていると思ひます。

今回の災害は、まさしく困難であり、国民こそつて復興に向けてあらゆる努力を惜しんではならないと思ひます。私は、講演活動や教誨 (きょうかい) 活動で、「神様はその人が越えられない苦しみを、けつして、お与えにならない、きつと、超えられる」とお話をします。

きつと、越えられる事を信じる、まさに日本人の鋭心 (とこころ) と読みます、勇気や強い心のことです、「大和心のをしき」を發揮すべき時なのです。

◇冒頭の、「去年 (こそ) 盛 (も) りあれば今年花なかるべき事を知るべし」とは、私達の生活や営みにも、よい時があれば必ず悪い時もあるということです。

これは人の力や智恵の及ばない、人智 (じんち) を超えたものです。その事を心得て、自然の道理として宿命として全てを受け入れて強く生きる、前向きに努力する事を怠らない事の大切さを説いていると思ひます。

◇休眠打破 (きゅうみんだは) は、いったい何の事でしょう、おわかりになりますか。実は、桜の開花のメカニズムの事であり、桜の花は、冬の低温がとても重要な要素でありまして、寒さという刺激が、その桜の花を長い眠りから目覚めさせるのであります。

イギリスの詩人「パーシー・シェリー」は、「冬来たりなば春遠からじ」という詩を残しています。東日本大震災という厳しい逆境、「冬きたりなば、冬に立たされていますが、辛抱して耐え抜けば、やがて、散った桜も再び盛りと咲く、「春遠からじ」、幸福が訪れる」といふ、希望を持ちたいものです。

津波は、世界共通語であります、今回の大災害を見事に復興して、「大和心」「思いやり」「大復興」そして、人々の「絆」が世界共通語になるようにしたいものです。

そのためには、「自分が何が出来るかを考える」、そして「痛みを分け合う、心を寄せる」という二本柱を忘れずに、「休眠打破」を成し遂げましょう。

皆様の御多幸を祈ります。

第六十号 (平成二十三年五月二十一日)

◇東日本大震災より二ヶ月が経過しましたが、この大震災は、大地震と大津波が同時に起こり、福島原子力発電所の事故、さらには風評被害、天災と人災との複合的な巨大災害であります。被災によつて尊い命を亡くされた方、未だ行方不明の方、避難生活を余儀なくされている方、心からお悔みとお見舞いを申し上げます。

哲学者の清水幾太郎は、日本人の事を、「大地震によつて脅 (おび) や) かされるといふ運命を担っている民族で、それは、遠い昔から今日まで、恐らく遠い未来に至るまで。」と述べています。我々は、目には見えない大きな力によつて生かされて生きているのです。大自然の恵みを受けて、この地球という大地に住まわせて頂いているのです。

ね。「地球にやさしく、環境にやさしく」というのは、人間のおこりであつて、「地球に、環境にやさしくしてもらつて」から、今の穏やかな日々があるのです。

「明」という字は、お日様の日と月を組み合わせたものではなくて、日は「窓」を表し、窓から月光が入り込むことを意味しています。古代の人々は、その月の光の差し込む場所に祭壇を作り、神を祭つたといわれています。やはり、未来永劫 (みらいえいこう)、地球に環境にやさしくして頂く事を祈らなければならぬのです。

過日 (かじつ) のお祭りは、そのような祈りを込めて、黒い浮雲 (うきぐも) が払われて、清明 (さや) けき月の光を仰ぎたい、「明 (あか) るくなつて欲しい、その一心で御奉仕申し上げました。」

西暦一、七七五年にポルトガルで起きた「リスボン大地震」では、約七万人の方が亡くなるといふ大災害でした。その大災害に、フランスの作家「ルソー」は、「自然にかえれ!」と言われたそうです。

今、私共が、「自然にかえり」生活する事は不可能です。やはり、電気・水道・ガスといった「ライフライン」は不可欠です。しかし、せめて、

やつと一家に一台のクーラーという二十年前、扇風機と団扇 (うちわ) で過ごした四十年前には、工夫をしながら、かえりつつですね、節電に取り組みたいものです。

そして、「大自然を敬い感謝する」、「大自然への畏敬 (いけい)」という、心だけは、いつも、自然にかえってほしいものです。

◇桶階 (たけがし) (たちばなあけみ) は、幕末期の文壇において、清新な万葉調の歌を詠んだ歌人であり、

「たのしみは、まれに魚煮 (うおに) て 児等 (こら) が うまいうましと いひて食うとき」という歌を残しています。

大変貧しい生活をしていらつしやつたそうですが、たまに頂く魚の煮つけを家族そろつて、じつに楽しそうに、おいしく食べている、和やかな一家団欒 (いつかだんらん) の様子がうかんできます。

まさに、「日々是好日 (ひびこれこうじつ)」、毎日毎日が穏やかで平和な日々であり、これこそが、とても有難く、何物にもかえられない尊いものである事を感じています。ご自愛を祈ります。

夏越祭齋行

【七月二十九日(金)前夜祭】／【三十日(土)御神幸祭】

前夜祭

七月二十九日(金)

◎午後五時より前夜祭(大祓式並びに菅拔神事)齋行

大祓式とは、毎年(六月と十二月の末日)二回、全国の神社で執り行なう大切な神事で、日常生活において、知らず知らずのうちに犯してきた心身の罪穢れを祓い清め、神様の御心にながう清く明るい正しい生活を続けようという日本の伝統的信仰であります。

人形(※右図)に氏名・年齢・男女の別を記入

(※車形の場合は、車のNoプレートも記入)

し、息を三回吹きかけ、これにより人形はその人の分魂が宿り、大祓式の当日に神職がお焚き上げ(又は、それに準ずる行為)することにより、半年間の生活の中で気付かぬ内にその方の身に付いてしまった罪や穢れが悉く祓い清められるという神事です。

※人形並びに車形を社頭にて頒布致しております。社務所までお気軽にお申出下さい。



夏越祭・菅拔神事とは、酷暑の夏を前に、カヤとヨモギで作られた輪をくぐり、無病息災をお祈りするお祭りです。当宮においても茅の輪を設けます。願いを込め「茅の輪くぐり」をいたしましょう。

カヤとヨモギには、左記のような意味があります。

※カヤ…鋭い葉で罪・穢を切り払う。又、カヤの芽が青々とたくましく伸び行く様にあり、生命を授かる事を祈る。

※ヨモギ…葉草の一種。又、ヨモギが生い茂るが如くに、一家の益々の繁栄を祈る。

御神幸祭

七月三十日(土)

◎午前七時より本殿祭・発興齋行

※煙火の合図により午前八時御神輿出発

彦島各町内におみこしをお駐めし、会社、工場を始め皆様方のご安全、ご繁栄を祈願するお祭りです。

御神幸祭の順路時刻表(※下記)をご参照の上、おみこしにお参り、ご参拝いただきまして、平成二十三年下半期の更なる安全と幸せを祈念されますようご案内申し上げます。

尚、午後三時よりは、海士郷町の彦島漁港より御座船(※左記参照)に、おみこしをお載せして、彦島大橋下を通過、西山海岸沖を経由、西山町の南風泊分港に至る区間、西日本最大規模の海上渡御が行われます。

毎年、海上渡御には県内外の多くのアマチュアカメラマンの撮影姿が見受けられます。

豆知識「御座船」とは?

天皇をはじめ公家、将軍といった高貴な方が乗る船の事をさします。

当宮では、二艘の船を連結して、神霊を奉じた御神輿を乗せた船を御座船(特に海御座船)と呼んでいます。

ちなみに、古来天皇の御座船は茅葺きで、千木・鯉木を上せします。又、將軍の御座船は檜皮葺きで鰻を上せるといった違いもみられます。



夏越祭御神幸順路と予定時刻

本社御発興 → 正面鳥居左折 → 下関三井化学内 → 三井化学前信号を左折 → 十二苗祖墳墓 → 卯月峠經由本村四つ角を右折 → 8:00 8:05 8:20 8:25

後山ナカハラプリンテックス倉庫前に入り進行 → みやぎ理容院を右折 → 南国マンション横左折 → 県道を横断 彦中下を上る → 関門トンネル上を右へ → 塩谷公園横を通過 福浦2町へ入る → 日ポリ産業前 → 山口三菱自動車角右折進行 → 金刀比羅宮 → 8:40 8:50

関門海峡フェリー前 → 日本歯科薬品前 → 福浦橋を渡り塩浜へ → 塩浜町民館前 → サンデン彦島営業所内 → 大通りを進行 → 9:00 9:05 9:10 9:20

県道横断向井町を経由 山中町民館前引き返し桜ヶ丘入口より峠を越し弟子待徳岡商店前を左折進行 → 日本グリーン昭昭八幡前 → 9:45 10:00

引き返し → 弟子待町民館前 → 弟子待を出て 弟子待保育園を下り右折 → 村田漢方薬局前左折進行 → 角倉公園 → 10:20 10:35 10:45

県道に出て右へ → 福浦山銀前信号を右へ → 杉田信号を右に進行 → 三菱至誠寮前を左に上り江の浦8丁目中通を進み県道に → 11:05

出て右折 → 下関菱重興産前 → 三菱下船工場内 → 江の浦町民館前 → サンセイ下関工場内 → 11:10 11:25 11:55 12:10

屋 食(於、本村公会堂 TEL266-2219)

出 発 → 老町 → 貴布禰神社階段下 → 海士郷恵比須神社前「彦島漁協にて海上渡御準備」出 船 ~~~~~ 漁港内一周 ~~~~~ 14:00 14:10 14:25 15:00

~~~~ 小戸口、彦島大橋下を抜け ~~~~~ ヒコットランドマリナービーチ沖を通過 ~~~~~ 南風泊魚市場岸壁に上陸 → 魚市場前 → 15:35 15:45

南風泊漁協前 → 県道右折竹の子島に渡り前田造船所前引返し → 西山公会堂前 → 彦島製錬 → MCS → 県道右折進行 → 15:50 16:10 16:30 16:40 16:45

西山口信号を直進 → 神社前 キャボットジャパン引き返し → 荒田、絞バス停車前を左へ上り旧道を進行 → 彦島豆富工場前を通り → 16:50

県道を右へ → サンリブ彦島泊町店 → 本社御還幸 : 修祓(一旦停止)箇所 : お旅所(祭典、小休止)箇所 → 17:10 17:15



# 安産祈願祭。 腹帯清祓のご案内

彦島八幡宮は別名『子安八幡』とも称され、安産の神様としても崇められております。腹帯をお清めされ、安産祈願祭を肅行されますことをご案内申し上げます。

古来より戌(犬)はお産が軽いとされることから、安産については、戌の日が吉日とされ、帯祝いなどにはこの日を選ぶ風習が伝承されております。懐妊五カ月が過ぎた最初の戌の日を選ぶ地方が全国的に多く見受けられます。

\*平成二十三年下半期の戌の日を表記いたしますのでご参照下さい。

|     |        |    |
|-----|--------|----|
| 7月  | 6日(水)  | 大安 |
|     | 18日(月) | 大安 |
|     | 30日(土) | 大安 |
| 8月  | 11日(木) | 赤口 |
|     | 23日(火) | 赤口 |
| 9月  | 4日(日)  | 友引 |
|     | 16日(金) | 友引 |
|     | 28日(水) | 仏滅 |
| 10月 | 10日(月) | 仏滅 |
|     | 22日(土) | 仏滅 |
| 11月 | 3日(木)  | 大安 |
|     | 15日(火) | 大安 |
|     | 27日(日) | 先勝 |
| 12月 | 9日(金)  | 先勝 |
|     | 21日(水) | 先勝 |

## 七五三参拝の御案内



七五三参拝とは、初宮詣のあと三歳、五歳、七歳と成長の節目に近くの氏神様若しくは崇敬神社に参拝して無事成長したことを感謝し、これからの将来の幸福と長寿をお祈りする人生儀礼の一つです。

現在の七五三の形態は江戸時代から始まったとされており、幼児から子供に育った事を皆様で祝い致します。

左記の通り、今年七五三をお迎えになるお子様を御家族の方共々にお祝い申し上げ、お守り、千歳飴、知恵おこし、おもちゃをご用意いたしております。

### 三歳 平成二十年生まれの男子・女子

※古くは髪置と言ひ、頭髮を伸ばし始める歳です

### 五歳 平成十九年生まれの男子

※古くは袴着と言ひ、袴を着用し始める歳です

### 七歳 平成十七年生まれの女子

※古くは帯解と言ひ、大人の帯を用い始める歳です

\*ご参考までに...

「七五三の日」は十一月十五日に制定されていますが、何故十五日かと言えば、鬼宿日(日の吉凶判断などに使われる二十八宿の一つで、二十八宿中の最良の日)にあたり、天和元年(二六八)十一月十五日に江戸幕府第五代將軍徳川綱吉嫡男徳川徳松の健康を祈願した縁日であるためです。ちなみに「七五三」のお祝いのお子様に、昆布を食べ元気に育って欲しいという願いを込めて、「昆布の日」(社団法人日本昆布協会 一九八二年)また、「七五三」の日に家族そろって着物で出かけてほしいとの願いから、「着物の日」(全日本きもの振興会 一九六六年)に制定されていますが皆様ご存じでしたか。

## 祭事暦

《下半期の祭典(行事予定)》

\*毎月 二十一日: 朝粥会

### 【文月】七月

- ▼九日 六連島七社祭
- ▼十五日 天満宮例祭(竹ノ子島町)
- ▼下旬 六連島八幡宮夏越祭
- 田の首八幡宮夏越祭

▼二十九日~三十日 彦島八幡宮夏越祭

▼三十一日 恵比須神社夏越祭(海士郷町)

### 【葉月】八月

▼七日 まほろば学級(於、彦島八幡宮)

### 【長月】九月

▼十日~十二日 若宮神社例祭(彦島八幡宮境内)

※両日とも平家踊りがあります。

▼二十三日 貴布禰神社例祭(老町)

彦島八幡宮神道会秋季祖霊祭

※宗旨が神道家のみたま祭

### 【神無月】十月

▼四日~五日 六連島八幡宮例祭

▼八日~九日 田の首八幡宮例祭

▼十五日 舞子島八幡宮例祭

### ▼十五日~十六日 彦島八幡宮例大祭

(山口県無形民俗文化財「サイ上り神事」)

\*例大祭に併せて各種奉納行事を執行し、多彩なイベントが開催されます。詳細は十月に秋祭りのちらしを配布予定です(ご参照下さい)。



### 【霜月】十月

▼十七日 神嘗奉祝祭

▼三日 明治祭

▼十五日 七五三祭

▼二十三日 新嘗祭

### 【師走】十月

▼三日 恵比須神社(海士郷町)祈漁祭

※通称「ボラ祭」

大注連縄奉製並びに煤払式

▼四日 天長祭

正月臨時巫女奉仕者説明会

▼三十一日 除夜祭

▼三十一日 除夜祭

### 兼務社並びに摂末社の紹介

**【兼務社】**

- 田ノ首八幡宮
- 六連島八幡宮

**【摂社(境内)】**

- 大歳神社
- 若宮神社
- 水神社

**【末社(境外)】**

- 竹の子島天満宮
- 南風泊恵須須神社
- 福浦金刀比羅宮
- 塩竈神社
- 貴布禰神社
- 海士郷恵比須神社
- 舟島神社
- 荒田港
- 福浦港
- 巖流島(船島)

### 豆知識 「兼務社と摂末社とは？」

**兼務社**... 神職が本務神社以外の神社を兼務する場合の神社。

**摂社**... 本社の御祭神と縁故の深い神様を祀った境内社。

**末社**... 本社に付属し、摂社に次ぐ格式を有する小神社。

本社御祭神や由緒に関係がある神社で枝宮(えだみや)とも呼ばれる。

社務日誌抄  
平成二十三年一月～六月

▼睦月(一月)

一日 初大鼓  
歳旦祭、新年拝賀



元始祭

三日 臨時巫女奉仕終了

五日 六連島八幡宮歳旦祭並びに島内戸別祓い

十二日 山口県漁業協同組合南風泊支店養殖わかめ実行組合火入式

十三日 山口銀行彦島はつてんクラブ正式参拝

十五日 成人祭

十六日 どんど焼き

二十一日 境内消防演習



境内消防演習



二十三日 三菱重工業(株)指定店会正式参拝  
下関市議会議員候補者出陣式並びに当選必勝祈願祭

▼如月(二月)

二日 節分祭境内準備設営

三日 節分祭

五日 横浜ベイスターズ下関ファン集いの会

八日 日本一必勝祈願祭

九日 初午祭(下関三井化学(株)・彦島製錬(株))

岡山八幡会正式参拝

紀元祭



十一日

十七日 建国記念日奉祝式典

二十五日 祈年祭

二十七日 六連島八幡宮祈年祭

田の首八幡宮祈年祭



▼弥生(三月)

十五日 東日本大震災復興祈願祭

南風泊恵比須神社例祭

二十日

春分祭祖霊祭



神道会総会

▼卯月(四月)

三日 勸学祭並びに新入学奉告祭

四日 氏子青年会 維蘇志会総会

九日 六連島八幡宮荒神祭

十日 竹の子島金刀比羅宮例祭前夜祭

竹の子島金刀比羅宮例祭本殿祭、御神幸祭



十二日 日本グリース(株)下関工場内稲荷神社例祭

十六日

舟島神社例祭  
佐々木小次郎劍客慰霊祭



敬神婦人会総会

十七日 舟島神社例祭奉納グラントゴルフ大会

十九日 小型機船底曳網漁業協同組合 大漁祈願祭

二十四日 彦島地区戦没者慰霊祭



▼皐月(五月)

二十九日 昭和祭

五日 子供祭



塩竈神社例祭



十四日 福浦金刀比羅宮例祭前夜祭

十五日 福浦金刀比羅宮例祭本殿祭、御神幸祭

二十一日 海上自衛隊ミサイル艇しらかか、おたか艇長以下乗組員正式参拝

二十二日 早起会総会並びに研修旅行(山陰方面)

二十七日 北九州神職会・山口県神社庁下関支部 親睦野球五十周年記念大会

祝賀会開催(於、当宮瑞鳳殿)

▼水無月(六月)

四日 氏子総代 奉賛会理事総会

十日 海士郷恵比須神社例祭

十三日 御座船選出神占神事

三十日 貴布禰神社境内稲荷神社例祭大祓式





平成二十三年  
節分祭御協賛  
会社御芳名

平成二十三年節分祭斎行にあたりまして  
左記の通り多大な御協賛を賜りました。

(\*順不同、敬称略)

【設営協賛の部】

▼舞台花道設営

(株)新原工業

▼照明設備

(有)タツミ電工

【協賛金の部】

下関三井化学(株)

青木鉄工(株)

(株)田原工務店

彦島製錬(株)

(株)エム・シー・エス

キャボットジャパン(株)下関工場

日本サイテックインダストリーズ(株)下関工場

三菱重工(株)下関造船所

サンセイ(株)下関工場

日新リフラテック(株)

下関唐戸魚市場(株)

協立運輸商事(株)

池田興業(株)下関支店

下関菱重興産(株)

西和建工(株)

ジャパンマリン(株)

(株)石原建設

西中国信用金庫西山支店

(株)山口銀行彦島支店

(株)ナカハラプリンテックス



新年御供米料奉献会社御芳名

(\*順不同、敬称略)

(有)マルゲン包材

山口県漁業協同組合彦島支店

末次ふとん店

下関唐戸魚市場(株)

タナカ機工(有)

(株)田原工務店

大久保本店

ジャパンマリン(株)

(有)上釜電機商会

(株)平越商店

青木鉄工(株)

(有)エポック

三菱重工(株)下関造船所

(株)山口銀行彦島支店

J A 下関彦島支店

キャボットジャパン(株)

大田造船(株)

(株)大庭工務店

(有)ステンレス工芸

(株)岡本鉄工

(株)美栄水産

農水フーズ(株)

日新リフラテック(株)

(株)彦島交通

西和建工(株)

西中国信用金庫西山支店

石原建設(株)

(有)大神商店

松田内科クリニック

(株)下関ユアサ建材

古賀産業(株)

和日電機(株)

大日商事(株)

(株)ユキテクノ

(株)副田工務所

香洋工業(株)

彦島眼科

下関菱重興産(株)

(有)三宅商店

(有)岩原クリーニング工業所

(有)ライス&ミルク上村

(株)大伸運輸

(株)室田組

(株)原工務店

関門三協工業(株)

みなと不動産

(有)南国シテイタクシー

(有)植田商会

ダイヤ電機(有)

シャディサラダ館彦島店

池田興業(株)下関支店

(有)ライフクリーニング

植田木材(株)

(有)国際自動車

山口県漁業協同組合

下関南風泊支店

(株)共立機械製作所下関工場

テラーしばた

枝村悦治

熊本敦子

(株)ナカハラプリンテックス

\*御献納賜りまして厚く御  
礼申し上げます。ありが  
とございました。  
更なる弥栄とご隆盛をご  
祈念申し上げます。

氏言たより  
冬みそぎ錬成会に参加して

維蘇志会 直前会長 濱 畠 芳 治

「禊ぎ(みそぎ)」その起源は古く、古事記のイザナミノミコトを追い黄泉の国へ行ったイザナギノミコトがこの世に戻ってきたとき、穢れた身を川で洗い清めた事が始めとされています。つまり、心 身体 魂に滞った罪や穢れを洗い流し新たな自分に蘇る、これがみそぎであり、特に寒い冬に神聖な自然と水の力を借りて本来の自分に還る儀式を冬みそぎといえます。全国では、神社関係者等がおもに氏子らを集め 海 川 滝に入るみそぎを行っています。

当underlineでは、三十年以上も前より、青年神職会(のち氏子青年会も参加)が主催して冬みそぎ錬成会を行っています。場所も始めは綾羅木海岸 西山海水浴場と移り、現在では豊功神社がみそぎ場としている長府御船手海岸で行われています。私たち彦島八幡宮の氏子青年会である維蘇志会も平成五年の会の発足以来この行事に参加させていたでています。私自身も会が出来てからずっと参加しておりましたが、ここ三年は他の用事があつたり、体調が悪かつたりして参加できずにおりました。しかし二期四年させて頂いた維蘇志会会長を三月いっぱいですることになり、その区切りということもあり今年のみそぎに参加することにいたしました。

みそぎ当日はそれまで続いていた小春日和とはうって変わって小雨交じりの肌寒い日となりました。「これでこそ絶好のみそぎ日和」などとおっしゃる三十年来のベテランを横目に気分は落ち込むばかり、しかし正式参拝も終わり、豊功神社工藤宮司の先導のもと神事に入る頃には気合も入り、いざ海へ。大祓詞一卷をあげ海から上がりも一度神事を行い三本締めで終わるころには、寒さに震えながらも無事終えたと言う達成感で感激しておりました。最後に四年間維蘇志会会長を勤められたのも神社関係者の皆様のおかげと感謝申し上げますこの稿を終えたいと思います。ありがとうございます。





平成二十三年五月十五日

# 福浦金刀比羅宮 壹百八拾貳年例祭

写真撮影提供 中野英治氏(彦島向井町在住)



禰宜カメラマン  
私も撮影してみました。





寄稿



下関市長 中尾 友昭

### 彦島八幡宮社報「産土」に寄せて

まずは、この度、彦島八幡宮社報「産土」に寄稿の栄を賜りましたことに、心より御礼申し上げます。また、彦島地区の皆様方には、平素より市政各般にわたりご理解ご協力賜り、深く感謝申し上げます。

折角の機会ですので、平成二十三年度の市政運営について触れさせていただきます。

今年度の市政運営のキーワードは「元氣・一丸！下関」です。市職員はもとより、様々な団体や企業、そして地域の皆様方と一丸となつて、安心安全なまちづくりや、経済の活性化などに、積極的に取り組んでまいります。中でも、「下関駅にぎわいプロジェクト」や「市役所庁舎整備」などにつきましては、これらを着実に進める一方で、「やつぱり地元・大好き！下関運動in市役所」を継続し、市内産品やサービスの地産地消、公共事業の地元発注・地元調達など、地元経済の活性化を推進してまいります。

また、この度の東日本大震災の被災地への支援にも、しっかりと取り組んでまいります。市では、市議会のご理解とご協力をいただきながら、商工会議所、社会福祉協議会、連合自治会、さらには、県との連携のもと、義援金をはじめ、救済物資、人的な派遣、また被災者の受入など、様々な支援や取組を行っているところです。

今後、長期にわたる取組となりますので、彦島地区の皆様方におかれましては、ご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

さて、大震災の影響もありイベントの自粛など、日本中から元氣が失われつつあるように思われます。下関から元氣を全国に発信していくためにイベントについても積極的に開催してまいります。

特に、今年十月に開催される「おいでませ！山口国体・山口大会」では、全国から来られる選手の皆様方を、温かい「おもてなしの心」でお迎えしたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願いたします。また、下関海響マラソンでは、大会に併せて復興支援の取組も行う予定です。

以上、今年度の市政運営について述べさせていただきましたが、これからも市民の皆様が元氣で将来に希望の持てるまちづくりを進めてまいりますので、彦島地区の皆様方におかれましては、地域社会の発展のためにご尽力賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、彦島八幡宮、並びに彦島地区の今後益々のご発展と、彦島地区の皆様方のご健勝ご多幸を心からお祈り申し上げます。拙稿の結びとさせていただきます。



川崎 博

### 責任役員総代長退任のご挨拶

新緑の候、ますますご清祥の事とお慶び申し上げます。平素は、当八幡宮祭典行事等に関しまして、皆様方のご指導ご協力を頂戴している事に深く御礼申し上げます。

さて、ここで、私事で大変恐縮ではございますが、私が当八幡宮の責任役員を拝命したのは平成四年のごことです。以来、十九年の歳月を迎えたわけですが、このような大事な時期に私にとっては思いもよらない事故が起きました。と申しますのは、転倒による「腰部圧迫骨折」です。昨年一月十八日入院となり、現在も足腰のリハビリ訓練をおこなっているところがございます。そのような事もあり、当八幡宮に対しても、また、当宮司に対しても、ご迷惑をおかけし誠に申し訳なく思っております。

と同時に、これ以上のご迷惑をお掛けすることはできないと思ひ、ここで責任役員を退任、後継者に対し職責を引継ぐ事が私の最後のご奉仕ではないかと思ひ、宮司に相談し了解をいただきましたと考えておりました。

その後、宮司より連絡があり、四月二十八日の山口県神社総代会終了後の午後四時頃にお逢いすることができました。そこで、私の思いを説明申し上げ、快く了解されたところであります。

彦島八幡宮及びサイ上り神事は、言うまでもなく、この美しい日本の文化、尊い日本民族としての誇りであり、これらを失うことなく、次の世代へ守り、伝えましますよう、共々に鋭意努めて参りたく存じます。

ここで、皆様方へ私からお願いがございます。本年十月に行われます当宮の祭礼には必ず参拝され、サイ上り神事を拝観してください。

結びに、彦島八幡宮のご隆盛はもちろんのこと、関係団体、並びに、氏子の皆様方のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。



真鍋 正美

### 責任役員退任のご挨拶

この度私儀彦島八幡宮責任役員職を退任させていただきますことになりました。皆様温かいご指導ご協力を賜り、今日まで無事に大役を果たすことの出来た事を厚く御礼申し上げます。

顧みますに、昭和五十五年には亡き河野安雄様との出会いがありました。拝眉の切に色々とご教示いただき今日にいたりました。又お三方の宮司様とのご縁がありました。奉仕関係の皆様とのご縁をいただきました。縁あって、なんだか古めかしい言葉のようですが味わいのある言葉ではないでしょうか。謙虚と信頼・調和の集いの場にて共に過ごすことが出来たよろこびは八幡宮の出会いのお陰と思っております。先人のお陰で八百五十年大祭の大きな花開いた折に接する機会を得た幸せを昨日のように想い出します。平素の安泰を神に謝し、明日の無事を祈る気持ちでござります。皆様様の姿を祈り折にふれ同席させていただいた三十三三年間の思い出・ご縁があったことを感謝いたします。

終わりになりましたが、草々は呼びかわしつづつ枯れて行く。八幡宮の益々のや榮えと皆様のご多幸ご健勝をお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

思い出多い三十三年の出会いでありました。ありがとうございます。

お食事・仕出し(御弁当)はお任せ下さい

彦島八幡宮会館

### 瑞鳳殿の御案内

お友達やご家族との会食、披露宴、新年会、忘年会、歓送迎会、各種懇親会、年祭・法要等全てに対応しております。仕出し等の各種弁当もご用意できます。ご予算献立等詳細はご連絡下さい。完全予約制ですので予めご了承下さい。

予約センター  
連絡先

☎0831-3410731  
【午前10時30分〜】

※社務所にて受付しておりますので  
お気軽にご相談下さい。

\*洋ホール二〜一〇〇名様まで対応

\*和室十二畳 (※六畳二部屋)

\*和室二十畳 (※十畳二部屋)

【和室会席の場合 定員三十五名】



神前結婚式のご案内

### 日本の伝統「和の心」継承へ

〜神道における最上の「産霊(むすひ)」行為〜

鎮守の杜で美しく雅やかな結婚式を…

神前にて共に生きることを誓う、人生における最も重要な儀礼を、神聖な社殿で執行してみませんか。披露宴会場も隣接の社会館「瑞鳳殿」にて挙行できます。 ※詳細は社務所までお問い合わせ下さい。



### 境内設備 新設

本年二月に摂社大歳神社前の参道沿いに庭園灯を新設し、四月には社会館瑞鳳殿並びに祖霊殿内のトイレ内を自動センサー洗浄に致しました。今後も、ご参拝の皆様方に鎮守の杜で清々しく過ごしていただく為にもよりよい環境整備に努めてまいります。



彦島八幡宮への誘い

### 朝粥会の御案内

(毎月二十一日)

彦島八幡宮では、毎月二十一日を神縁日とし《午前六時三〇分〜七時二〇分頃》に朝粥会を開催いたしております。

彦島のまほろば(良き所、美しい所の意)で、清々しい朝をお過ごしになられてみてはいかがでしょうか。

どなた様でも参列参加していただけます。どうぞお気軽にお参り下さい。

【内容】①本殿にて祈願祭を斎行

(※誕生月該当者は全員玉串奉奠)

②宮司講話

③会館瑞鳳殿にてかゆを食す  
【初穂料】お気持ちで結構でございます。

### 編集後記

未曾有の大震災から早四ヶ月が経とうとしている。表紙に明治天皇様の御製を長くも掲載させて頂いた。国難の時、一人でも多くの方に永世普遍の大御心の清粋に触れ、日本人の奥底に眠っている大和心を解き放っていただきたいとの思いからである。

我国は幾多の戦争、災害の国難から皇室国民一体となり復興してきた史実がある。それは何より、勤勉且つ勇敢な我々祖先の大和心が礎となったに違いない。「如何なる試練に立つても屈せず立ち向かっていくのが大和心である」という御製の歌意そのままに。日本人の誇りと自覚を以って奮闘努力した精神は今日の日本の姿であろう。去る三月十六日の今上陛下の有難いお励ましのお言葉にも正に繋がるものだ。国を思う道筋はいかなる時も皇室の皆様、国民も共に歩んでいると実感した。復興の最前線で奮闘されている被災者の方々をはじめ関係各位の雄々しきとともに、遠く離れている我々国民の後方支援も改めて大事であると論じていただいたような感じである。復興には決して安くない道のりであるが、大和心がある限り、日本は不滅であると信じて止まない。(山本)

表紙御製 第二二代明治天皇  
表紙写真 当宮 楼門  
発行所 彦島八幡宮社務所  
下関市彦島追町五丁目十二番九号  
TEL 〇八三二二六六一七〇〇  
FAX 〇八三二二六六一五九一一  
ホームページ http://www.hikoshima-gu.ne.jp  
発行人 柴田 宜夫  
編集員 山本 光徳  
平成二十三年七月一日  
印刷 (株)ナカハラプリンテックス